

平成 27 年度

2月1日

第1回午後入試

[プラウド入試]

(特待チャレンジ入試①)

国語

(50 分)

注 意

- 1 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は □ から □ まで、16 ページにわたって印刷してあります。
- 3 解答の下書きが必要なときは、この問題用紙の余白を利用しなさい。
- 4 解答用紙には、受験番号と氏名を書きなさい。
- 5 解答はすべて解答用紙に書き、解答用紙を提出しなさい。
- 6 句読点、記号は字数に数えなさい。
- 7 本文中には、問題作成のために省略や表現を変えたところがあります。

かえつ有明中学校

一

次の文章は、田中優子著『グローバリゼーションの中の江戸』の一節です。江戸時代、日本の服には変革と流行がありました。常に新しい色や柄や技術が開発され、人が服を買うことを楽しんでいました。その変革と流行のきっかけは、外国からの情報でした。以下の文章はそれに続くものです。これを読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

明治維新以後、日本人は①アメリカ人やイギリス人が着ている洋服を着るようになりました。最初は天皇が西洋の軍服を着ました。次に男性の華族や役人や会社員たちが洋服を着るようになりました。女性は、天皇家の人々や華族たちが洋服を着ました。②それはなぜでしょうか？ 今、私たちは洋服の方が安くて楽だから洋服を着ますが、当時は洋服の方が高価で、決して樂ではなかつたのです。その証拠に男性たちは勤め先から帰つてくると着物に着替えてくつろぎました。勤めに出ない女性たちはもっぱら着物を着ていました。天皇や政治家が率先し、服装の欧米化がおこなわれたのです。その傾向は戦後（一九四五）ますます強まり、女性たちも洋服一辺倒になつて、今日に至ります。着物はほとんどの人が着ないので、今ではとても高価なものになつてしましました。

それは洋服の方が美しいからでしょうか？

A 今、ラオスやミャンマーに行くと、多くの男性が巻きスカートです。

B

都会ではジーンズをはく人も多くなっています。客観的に見て、巻きスカートの方がはるかに美しく、C、温度

湿度の高い地域ではその方が楽に決まっています。にもかかわらず彼らはジーンズを「かっこいい」と思うからはくのです。同じように、明治維新以後と戦後の日本人は、客観的には着物より不格好であつても、主観的には洋服の方が「かっこいい」と思い込んで着るようになりました。これがグローバリゼーションの一つの側面です。つまり、自国と外国のあいだに、価値の高低をつけたのです。欧米文化の価値は高く、日本文化の価値は低い、ということにしたのです。なぜかというと、技術や政治のみならず生活まですべて欧米化すれば「世界に認められる」と考えたからです。冷静に考えれば、衣食住まで変える必要はありません。より良いと思える技術や政治手法は導入し、そう思えないものは導入せず、生活のしかたはそのまま良いわけです。しかし明治維新と戦後に起こつたことは、都市の設計、建築物、エネルギー政策、衣類、食べ物に至るまで欧米化することでした。こうしないと世界の中で生きて行かれないと世界の中ではなく、欧米社会の生活を「豊かさ」だと思い込み、そこ

に「幸せがあるはずだ」と考え、それを目標にしてしまったのです。

これはまた、日本の側だけの事情ではありません。アメリカは小麦やミルクや肉や自動車や洋服生地やナイロンを売る市場を探していました。占領下に置いた日本は、ものを売る先として、もつとも都合がよかつたのです。そのようなアメリカの事情は現在でも同じです。今は、日本に米や保険や高度医療を売ろうとしています。

③グローバリゼーションには長所と欠点があります。大量に製品を作つたり、広い土地で農業ができる国が、生産力の劣る国に大量に安く商品をることで、ものや文化の多様性が失われ、国の自立性が無くなります。また、軍事力の弱い国が強い國のあらゆる面を模倣^{もほう}し依存することで地球上の文化が多様性を失います。それらの点が短所です。明治以降の日本はその短所の方を選んでしまったわけです。戦後も、二〇一一年には貿易のさらなる自由化によって、また同じ選択をしました。

もう一度、江戸時代に戻つてみましょう。羽織や着物や帯の事例で分かつてきましたが、戦国時代から江戸時代の日本人は、ポルトガル船やオランダ東インド会社船が運んできた衣類を、全面的に受け容れたわけではありませんでした。彼らが導入したのは「生地」でした。そこには暖かい素材、美しい色彩、面白い文様やデザインがあり、その面白さ美しさを採用しました。ついでにズボンもシャツも取り入れてみましたが、シャツはあまり拡がらずズボンは部分的に採用されました。食べ物では、金平糖^{こんぺいとう}やカステラやどら焼きは江戸時代に入ると、とても一般的なお菓子になりました。

それだけではありません。江戸時代では男女とも「^④たばこ入れ」というものを持つのがお洒落^{しゃれ}でしたが、その素材には、オランダ東インド会社^{らしや}が持つてきたヨーロッパの羅紗^{らしや}や金唐革^{きんからかわ}（牛の皮革^{ひかく}に金銀や色で文様をつけたもの）、インドネシアや中国の木綿^{もめん}、インド更紗^{さらさ}などを使いました。羅紗の生地に秋の虫を刺繍し、珊瑚で作った柿の形の金具をつけ、月と竜田川をデザインした鎖^{くさり}で飾つたたばこ入れがあります。これは、素材は輸入品の羅紗ですが、日本の秋を形にして取り合わせたのです。金唐革で作つたたばこ入れには、ふぐの形の金具をつけ、奈良の興福寺の古瓦をかたどつた根付けをあしらいました。これは「ふぐ」と「福」のだじやれです。かわいらしいふぐの金具をつまんで開けると、その裏にはカレイと梅の文様の金具がついています。ふぐは冬の季語（俳句で使う季節の記号）、カレイと梅は春の季語ですので、たばこ入れを開けると春になります。金唐革はヨーロッパのものですが、そのデザインと組み合わせは日本のものです。

江戸時代は中国、朝鮮、琉球、インド、インドネシア、ベトナム、カンボジア、南ヨーロッパ、北ヨーロッパなど、それぞれ異なる文化の影響を受けながらも、どこに偏るでもなく、必要なものをもらいながら、日本文化を作り上げていきました。

これを「内発的発展」と言います。「内発的発展」こそが、グローバリゼーションがもたらす長所です。

内発的発展とは、どこからも影響を受けずに閉じた空間で独自の発展を遂げることではあります。あらゆる情報を獲得し、その場所の気候や自然環境や歴史や職業や今後の仕事の可能性に沿いながら、人々がうまく生活していくように取捨選択して経済システムを作り上げてゆくことです。

たとえば森林に恵まれているのに木材を外国から輸入して森林崩壊になるとか、雪で倒れることがわかつている高山に杉を植えるとか、湿度が高いのにそれを吸収できない建築材料を使うとか、地震が多い国土に原子力発電所をたくさん作るなどは、実際に日本がやつてきたことです。自然環境は人の力で変えられないで、それを無視すると大きな災害が起きたり、膨大なコストがかかります。そこから考えると、内発的発展に知恵を絞るのは、とても重要なことなのです。

ここまで、ヨーロッパ諸国やアジア諸国の影響を受けた着物について語つてきましたが、では影響を受けなかつたものはないのかというと、それもありました。「風景の着物」です。江戸時代になると、刺繡や染めの技法が何通りも出てきて、どんなことでも可能になりました。ですから江戸時代の着物は、広げるとまるで一枚の絵画のようです。大きく D 川の流れの周囲にびつしりと萩の花が咲く着物、全体の半分を E 巨大な流れと、それに沿つて咲くかきつばたの着物、山中の流れに何羽もの鶯鶯が浮かび、その上に山桜が開き散り、そのあいだを鳥が舞つている着物、夜の山に梅が F そその木のもとに春の七草が見える着物、裾に松原が広がり、その向こうに帆船が浮かび、その上空を着物いっぱいに様々な格好で鶴が飛ぶ着物、竹林の中に迷い込んだような着物、夜の京都嵐山から桂川と渡月橋を G 着物、屋内の御簾を少し上げてそこから覗いた庭の草花と、そこに蝶の遊ぶ風景の着物、吉原の通りと茶屋と歩く人々を描いた着物、表は地味な無地で、裏に見事な青海波とそこに H 水鳥を刺繡した着物など、枚挙のいとまがありません。このような風景画でもある衣類は、日本の江戸時代に出現したのです。

問一 「^①アメリカ人やイギリス人が着ている洋服を着るようになりました」とありますが、同じ内容を表す言葉を本文から六字でぬき出しなさい。

問二 「^②それはなぜでしようか?」とあります、その理由としてあてはまらないものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 衣食住まで欧米化すると、世界に認められると考えたから。
- イ 客観的に見て洋服の方がはるかに美しく、安価で楽だから。
- ウ 日本文化よりも欧米文化の方に、より高い価値を認めたから。
- エ 欧米の生活に豊かさと幸せがあると考え、目標にしたから。

問三 □・□・□にあてはまる言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア また イ だから ウ たとえば エ なぜなら オ しかし

問四 「^③グローバリゼーションには長所と欠点があります」とありますが、その内容を説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、それぞれ指定字数にしたがつて本文からぬき出しなさい。

グローバリゼーションのもたらす長所は1五字で、それに対し、欠点は2九字が失われることである。

問五 「^④たばこ入れ」とありますが、どのような特徴がありますか。本文の言葉を使って、三十五字以内でまとめなさい。

問六 「江戸時代」と「明治維新以後と戦後」の異文化の受けいれ方はどのように違いますか。その違いを本文の言葉を使って、百字以内でまとめなさい。

問七 次の一文が入るところを三ページから見つけ、あとに続く文の最初の四字をぬき出しなさい。

自然環境を無視して技術だけを導入すると、とんでもないことが起こります。

問八 □ D □ H にあてはまる言葉をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア 明るい イ におい ウ 浮かぶ エ うねる
オ おおう カ 着る キ 見渡す ク 走る

問九 本文の内容にあてはまるものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 戦国時代以降、日本人は、海外から入ってきた衣類や食べ物を好意的にそのまま受けいれた。
イ 江戸時代は、特にアジアの文化の影響を受けて、世界に誇る国際色豊かな日本文化を作り上げた。
ウ 刺繍や染めの技法が発達した江戸時代の着物は、四季や自然を描写した風景画といえる。
エ 明治維新以降、天皇や政治家が洋服を着ることにより、その着心地の良さが広く世間に伝わった。
オ 現在でも日本文化の欧米化は、アメリカにとって自国の商品を売る市場を確保できるため好都合である。
カ 人間の力では自然環境を変えられないが、科学技術を発展させることで災害を防ぐことができる。

問十 この本文全体の題名としてもっとも適當なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 近代日本を豊かにした生活の欧米化
- イ 自然環境に合わせて発達した江戸時代の着物
- ウ 世界に認められた江戸時代のグローバリゼーション
- エ ファッションで見るグローバリゼーションの意味
- オ 日本の着物文化と欧米の洋服文化の比較

一一 次の文章を読み、あととの問い合わせに答えなさい。

春先の※武雄は、やわらかな空氣につつまれていた。その日、※平橋さんは市内のグラウンドで害鳥排除をするという。繁殖期がはじまり、そろそろカラスの数が増えてきていた。久しぶりに会った花ちゃんは、少しやせているように見えた。

「花ちゃん、ちょっとやせましたか？」

「うん。今日のために詰めたんよ。えさをあたえないことを詰めるつていうんやけど、二週間ほど箱の中に入れて詰めとつたんよ」

「えー、二週間も！」

理央は驚くが平橋さんは平然とうなずいた。

「カラスを追うには、このくらいは詰めるよ」

「ボクサーみたいですね」

「うん。極限まで飢えさせんと、獲物を襲う本能は出てこんよ」

(中略)

グラウンドの真ん中に立つて、平橋さんは花太郎を腕に乗せた。上空をカラスが飛んでいる。

(中略)

「じゃあ、①一回目 行きます」

平橋さんがそう言うと、腕に乗った花太郎は、言葉を理解したように、首を前に数回小さくつきだした。そして、笛の合図とともに飛び立つた。花ちゃんが飛ぶのを実際に見るのは二回目だが、今日はさらに攻撃的だ。

「気合十分って感じ」

「さつき、首を前につきだしたでしょ。あれは、今から敵をおそうっていうサインなんよ」

「へえ」

その意気ごみどおり、花太郎はカラスに一直線につつこんでいった。

「カーカーカー」

とたんに上空はカラスの鳴き声がひびきわたった。

「すごい」

どこからこんなに集まってきたのかと思うほどのカラスの大群が、空をおおう。

「花ちゃん」

理央は心配になつた。いくら訓練を受けているといつても、たつた一羽でこの大群に勝てるだろうか。しかし花太郎はさらに高度を上げると、果敢かかんにも、もう一度つっこんでいった。ひるむ素振りそぶも迷いも見せない。風をつきやぶる矢のようだ。カラスはそんな花太郎のまわりで、あつちに行つたりこつちに来たり、あわてふためいた様子だ。さつき平橋さんが言つていた、モビングという行動だろうが、理央の目には、ただパニックになつているようにしか見えなかつた。

そのうち、花太郎の飛び方が変わってきた。特定のカラスにばかり向かっている。明らかに一羽にねらいをつけたようだ。けれどその後は、あまり深追いもせず電柱に止まつた。

花ちゃん、疲れたんかな。

理央が思つたとたん、花太郎はぱつと飛び立つた。相手の不意をつくタイミングだった。そして一気に加速し、猛スピードでねらいを定めたカラスに襲いかかつた。敵を油断させて出し抜いたのだ。ねらわれたカラスは命からがら逃げていく。

「カーカーカー」

それを見たほかのカラスが、我先にと逃げはじめた。あつという間に、

上空からカラスはかき消えた。

「すごい」

理央は肩で息をついた。花太郎の行動はまさに狩りをする動物の迫力そのものだった。持ち得る観察力や瞬発力、持続力。その能力すべてを、獲物をとるというただ一点に、集中させ炸裂さくれつさせる。大いなるエネルギーの源を見たような気がした。

【ア】⁽²⁾ カラスを追いはらつたあの花太郎は、勝ち取った空を、まるで悠々と散歩でもするように飛んでいた。だれに遠慮することもなく、空を独り占めにしている。翼を立てて、なめらかにのびやかに飛んでいる。

「帆翔……」

理央は空をあおいでのぶやいた。

「よく知つとるね」

平橋さんも空を見あげた。

「前にペットショップの店長さんから教わりました。本当にヨットの帆^ほを立てて、海にこぎ出してるみたい」タカはまっすぐに翼を広げたまま、空を飛んでいる。ときどき体を傾けると、翼は天に向かつて伸び、まさに帆船のマストみたいに見える。

まるで大海原を進むような、花太郎。体が傾くたびに、すうっと高度があがる。帆が風の力を借りて進むように、翼で風を受けているのだ。

「気持ちよさそう」

途中までは人と同じ進化を遂げながら、神から空を飛ぶことを許された動物、鳥。

花太郎はゆつたりと全身を風にあずけている。あるがままの姿だ。見ているこちらまでも、ゆつたりとした気分になる。あれにくらべれば※モコの飛翔など、磯遊びみたいなものだ。⁽³⁾モコのことを思い出し、ついふきだしそうになつていると、平橋さんは言つた。

「すごく樂々と飛んでいるように見えるでしょう。でも、あれ、意外に細かい技術が必要なんよ」

「細かい技術？」

「尾羽^{おばね}をよく見てみて。少しずつ左右に傾けて、微妙なバランスをとつとるのがわかるよ」

「えつ、そうなんですか」

理央は、すべるように風に乗る花太郎の尾羽に目を凝らしてみた。

「あ、ほんとう」

確かに両翼は広げたままだが、尾羽のほうは、かじを切るように左右に傾けている。

「軽くやつてのけているように見えても、その裏には、纖細せんざいな技術が必要なんよね」

平橋さんの言葉は、Xと開いた空にしんなりとしみこんでいくようだつた。しばらくして平橋さんは笛を吹き、花太郎を戻した。

「おつかれさま」

ヒヨコをついばむ花太郎に、ねぎらいの言葉をかける。

【イ】花太郎の行動をモコはどう見ていたのだろうか。花太郎が飛んでいるあいだ、理央の腕に止まつていたモコは、上空の雄姿ゆうしにさして関心は持つていなかつた。

「モコちゃんもやつてみる？」

「……はい」

とまどいながらもモコを見る。飛んでくれるだろうか。理央は、風に向かつて立つた。

「モコ、行くよ」

笛をくわえる。がんばれ、モコ。モコに念を送つて、笛を吹く。

「ピツ」

モコは飛び立つた。

行けつ、モコ。

理央は両手をにぎりしめる。けれどやはりモコの体は思うようにはあがらなかつた。低いところを小さくひとまわりして、近くにあつた倉庫の屋根に止まつてしまつた。

「モコ、がんばれ」

理央は声をはりあげたが、もう役目は終えたとばかりにじつと羽を閉じてゐる。しかたなく理央は笛を吹いて、腕に戻した。

【ウ】「じつはモコ、このごろあんまり飛ばないんです」

戻ってきたモコを見ながら、理央はため息をつく。

「どのくらいの頻度^{ひんど}で飛ばしとるの？」

「週に二回」

答えると、平橋さんは少し首をかしげた。

「タカによつてちがうかもしけんけど、それはちよつときついかもしけんねえ」

「でもモコは訓練が遅れたし、がんばらんといけんから」

「気持ちわかるけど」

平橋さんは、前置きをしてこう言つた。

「理央ちゃん、少しあせつとるかもしけんね」

(中略)

〔※鷹匠^{たかじょう}の条件つて知つとる?〕

「いいえ」

「愛、知、威。前に読んだ本に書いてあつたよ」

平橋さんは地面上に漢字を書いて示した。

「タカを愛し、よく知り、威厳を持つて接する。それが、大自然の理に溶けこんでいく」とだつて
「大自然の理に溶けこむ?」

「うん。かんたんに言つたら、^④自然の声をよくきくつことかな。自然は自分の思うようにはならんでしょ。おしつけたつて無理。それどころかすごく敏感だから、こちらのあせりやいらだちを感じて反発する。そうすると関係がこじれることがあるよ」

「……はい」

(中略)

「飼い主は、動物の本能を尊重する覚悟を持つたほうがいいよ。コントロールする技術はそのあといぐらでもつくから、まずは広い心を持つこと」

「広い心……」

〔Y〕と痛むような言葉だった。実際、なかなか思うように飛ばないモコがくやしかつた。何度も見せてもらつた花ちゃんとは大ちがいなのはまだしも、カラスやハトにも負けている。タカなのにとじりじりした。だから、一生懸命に訓練した。

けれど自分が躍起になればなるほど、モコの能力は後退していく。どうしていいのか、わからなくなつていた。モコにはモコのペースがあつたのに、自分の気持ちしかわからなくなつていた。

モコ、ごめんね。理央は腕のモコに〔心のなかであやまつた。〕^⑤ちよこんと腕に乗つているモコが、かわいらしくて、鼻の奥がつんと痛くなつた。

「それと飼い主は同時に強い心も持つこと。何度も飛ばしているうちに、モコちゃんも強くなつてくるよ」

そんな理央に平橋さんは笑いかける。

「そうですか」

「うん。弱気で飛んどつたら、思わぬ敵にやられるかもしれないから」
しつと恐ろしいことを言う。でもそれは、うなずけることだつた。

【エ】自然界にはどこにどんな敵がいるかもしれない。ライオンだつて、ヌーの群れに襲われる」とがある。実際、命のかかつたカラスたちのエネルギーは尋常ではなかつた。訓練を重ねた花太郎の狩りでさえ、危ういものを感じたくらいだ。自然界において「食べる」ということは、同時に「食べられる」「やられる」危険性もはらんでいる。生命を維持させる営みは、おたがいにとつて紙一重のところにある。

考えると理央は〔Z〕とした。

「モコを飛ばすためには、これから、どんな訓練をしたらいいんでしょう？」

(まほら 三桃『鷹のように帆をあげて』より)

※武雄……佐賀県武雄市を指す。

※平橋さん……主人公にタカの訓練方法を教えてくれる先輩。武雄市在住。

※モコ……主人公の理央がペットショップで買い求めたタカの名前。

※鷹匠……タカを訓練し、自由に飛ばしたり狩りをさせたりする人。

問一 本文を三つの場面に分けるとすると、第三場面はどこからはじまりますか。はじまりの場所としてもつとも適當なもの

を次から選び、記号で答えなさい。

【ア】カラスを追いはらつたあとの花太郎は、

【イ】花太郎の行動をモコはどう見ていたのだろうか。

【ウ】「じつはモコ、このところあんまり飛ばないんですね」

【エ】自然界にはどこにどんな敵がいるかもしねり。

問二 「①一回目、行きます」とありますが、何の一回目ですか。本文から五字以内でぬき出しなさい。

問三 「②カラスを追いはらつたあとの花太郎」は、「帆翔」という飛び方をしていますが、それはどのようなものですか。

比ゆ表現を用いずに二十五字以内で説明しなさい。

問四 「^③モコのことを思い出し、ついふきだしそうになつてゐる」とあります、この時、理央はどのようなモコの飛び方を思い出していたのですか。次の（ ）にあてはまる言葉を十五字以内で本文からぬき出しなさい。

（ ）する、ぱっとしない飛び方

問五 「^④自然の声をよくきく」とありますが、その内容を言いかえた表現を一部よりあとの部分からきがし、十字内でぬき出しなさい。

問六 「^⑤心のなかであやまつた」とありますが、その理由を六十字以内で説明しなさい。

問七

X

Z

 の中にあてはまる言葉を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア しつとり
- イ すんなり
- ウ ぞくり
- エ ひりり
- オ すかん
- カ しいん

〔三〕 次の各問い合わせに答えなさい。

問一 次の――部と同じ意味・用法のものをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

1 そのパソコンの使い方がわからぬ。

ア 準備ができたので不安も心配もない。

ウ 今度は最後まであきらめない。

2 さわやかなあいさつが中学生らしい。

ア 助けてくれたのはあの高校生らしい。

ウ やつと雪がやんだらしい。

3 夢の島陸上競技場へ走りに行く。

ア 忘れ物を取りにもどった。

ウ ようやく静かになつた。

問二 次の【 】の場面において、もっとも適當な言い方をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

1 【合唱コンクールで、始める前のあいさつをして】

ア それでは私たちの合唱を聞いてもらいます。

ウ それでは私たちの合唱をお聞きになります。

2 【担任の先生が、毎年夏休みに海外留学していると聞いて】

ア 先生はこれまで何回海外留学に行かれたのですか。

ウ 先生はこれまで何回海外留学に行つたのですか。

イ 予算が少ないので節約する。

エ あのマンガはおもしろくない。

イ 注目チームらしい見事な演技だ。

エ 上川君は帰国するらしい。

イ お手伝いを家族にほめられる。

エ 電車はすでに到着していた。

問三 次のことわざ・慣用句の（ ）には、身体の一部をあらわすことばがはいります。下の【 】の意味になるようにあてはまる漢字一字をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 （ ）を落とす。【がっかりすること】
- 2 （ ）を巻く。【ひどく感心して言葉も出ない様子】
- 3 （ ）を引っ張る。【仕事の成功をじやますこと】
- 4 （ ）をくくる。【どんな結果になつてもいいと覚悟を決めること】
- 5 寝（ ）に水。【不意の出来事におどろくこと】
- ア 腹 イ 足 ウ 口 エ 肩 オ 目 カ 耳 キ 舌
- 問四 次の――部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。必要なものは送りがなも書きなさい。
- 1 弟は温厚な性格だ。
- 2 私は模型を作るのが好きだ。
- 3 地図の縮尺を確認する。
- 4 彼女の絵は評論家に絶賛された。
- 5 猫が迷いこむのは日常茶飯事だ。
- 6 買つた本を家にユウソウしてもらう。
- 7 お菓子を友達の家にジサンする。
- 8 お年寄りをウヤマウ。
- 9 彼は豊かなハツソウ力を持つている。
- 10 インショウに残る美しい音楽。